

からは小数であったと考えられるニレ属が柵列の木材として利用されたのは、比較的近くに適当なニレ属の一斉林が成立していたことが考えられる。先述したように、館城築城直前の景観は草原的景観であり、この景観はソバなどの栽培にともなう森林伐開によって出現した可能性を指摘した。当時の雑穀栽培は「アラキ型」の焼畑農耕と考えられる。耕作地は単年から数年の耕作で放棄され別の地点へと移動される。館城築城地点周辺の低地には耕作放棄されてから30年程度を経過したニレ属の一斉林が成立していた可能性がある。これまで検出された柵列木材が、周辺環境に豊富に存在したコナラ属ではなく、ニレ属を材料としていることは、館城周辺での雑穀（ソバ）栽培とそれに伴うニレ属の若い一斉林が存在した可能性が推測できる。

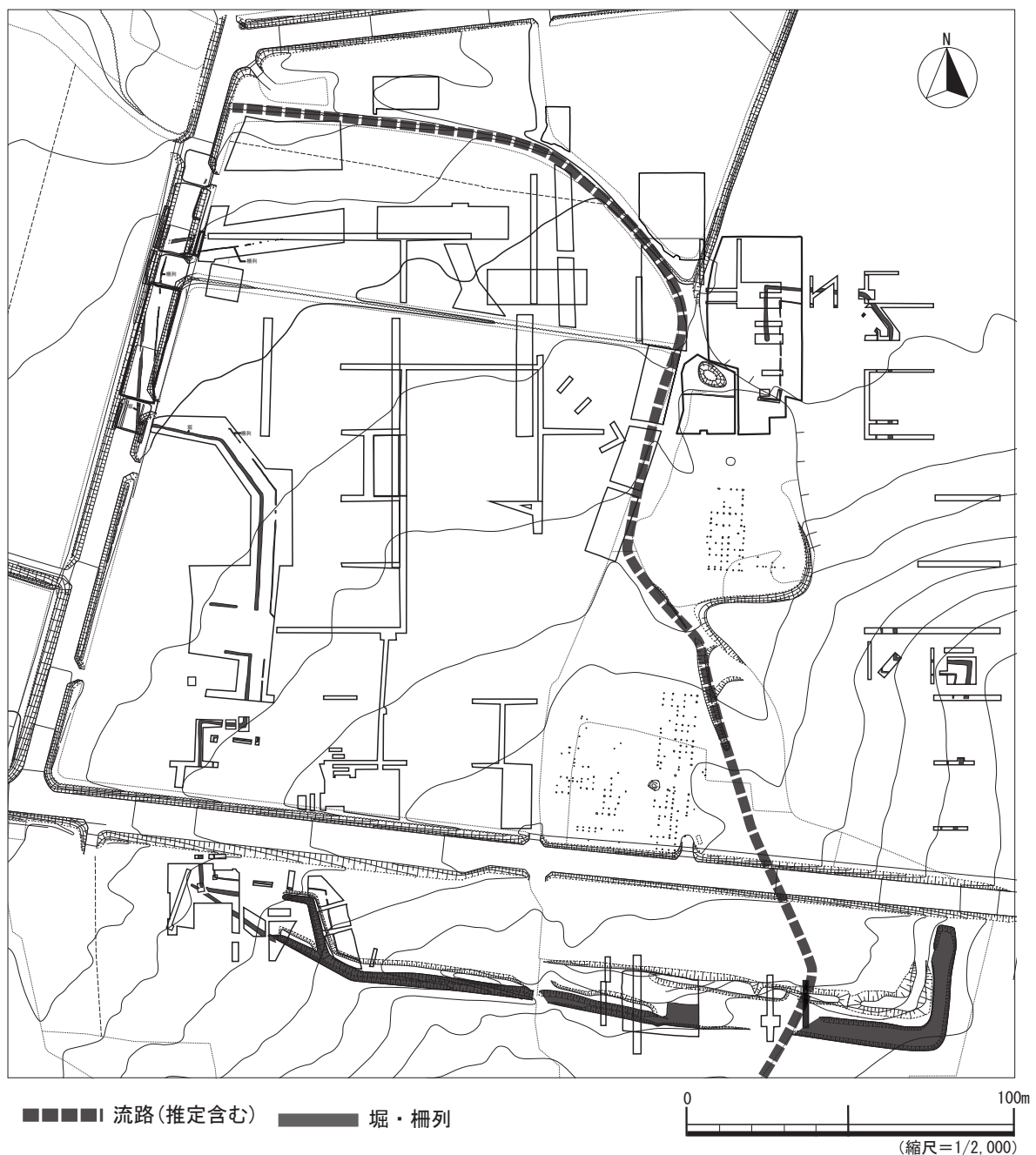


図28 外郭線遺構配置図